

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

- 1 学校教育目標 「進んでやりぬくたくましい子になろう」
 2 本年度の重点目標 「新琴似南まほう学校」「『たい』をとなえて未来をつくる子」「子どもの声を聴く」
 3 自己評価達成状況 【A B C D 4段階 A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分】
 4 学校関係者評価 【A B C D 4段階 A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分】

自己評価		学校関係者評価	
評価項目と改善の方策		達成状況	自己評価の適切さ
子どもの姿を通して	(1) 自分にはよいところがある。 <small>自己肯定感 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と感じる</small>	A	A
	(2) 人のよいところを見付けようとしている。 <small>他者受容 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と感じる</small>	A	A
	(3) 自分が必要とされていると感じる。 <small>自己有用感 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と感じる</small>	B	A
	(4) 人の役に立ててうれしいと感じることがある。 <small>自己有用感 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と感じる</small>	A	A
	(5) 人の役に立つ人間になりたいと思う。 <small>自己有用感 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と感じる</small>	A	A
<自己評価と改善策> 児童・保護者・教職員アンケートの結果、「相互承認の感度」については4項目で肯定的な意見が80%以上となり、子どもたちが自分のよさを認め、友達のよいところにも気付こうとする姿が見られた。学力だけでなく、思いやりや意欲などの非認知能力を日常的に評価し、教師が価値付けを行ってきたことが、この結果につながったと考える。今後は、自分だけで満足するのではなく、友達との関わりの中で互いを認め合う力をさらに高めていくことを目指す。		改善策の適切さ	
<御意見> ・「相互承認の感度」がよいということから、日々の生活が充実している割合が高いと言えると思う。先生方の意識や意欲の高さが子どもたちや保護者の相互承認の向上につながっていると思うので、引き続き取り組んでいただきたい。 ・非認知能力を向上させていくことはとても大切なことだと思う。「生きる力」の源となると考える。 ・「相互承認の感度」の評価が高いことは、保護者としてもとてもうれしいことだ。先生方が子どもたちに寄り添い、指導いただいているおかげである。		A	

自己評価		学校関係者評価	
評価項目と改善の方策		達成状況	
		自己評価の適切さ	
子どもの姿を通して	<p>(6) 自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。</p> <p>課題探究的な学習</p>	B	A
	<p>(7) 自分の意見を進んで発言しようとしている。</p> <p>課題探究的な学習 主体性</p>	C	B
	<p>(8) 意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。</p> <p>課題探究的な学習 協働的な学び</p>	B	A
	<p>(9) 分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。</p> <p>課題探究的な学習 協働的な学び</p>	A	A
	<p>(10) 学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。</p> <p>課題探究的な学習 協働的な学び</p>	A	A
<p><自己評価と改善策> 『あれ?』と『たい!』1日10個大作戦」を合言葉に、子どもたちは課題を見付け、友達や教師と協働して学ぶ姿勢が育ってきた。質問したり一緒に考えたりする力は肯定的な意見が多い一方で、考えを伝える・意見を発信する・話し合いに参加するなどの自己表現に関わる力には課題が見られる。相互承認の基盤は整っているため、今後は話し合い活動の型を明確にしたり、少人数で意見を出しやすい場を設定したりするなど、自己表現の意欲を高める具体的な機会を計画的に増やしていく。</p>		改善策の適切さ	A
<p><御意見> ・南小の子どもたちは元気がいいという印象なので「(7) 自分の意見を進んで発言しようとしている」という項目が低いのに驚いた。改善策が功を奏してくれるよう期待したい。 ・具体的な改善策で素晴らしいと思う。 ・「(7) 自分の意見を進んで発言しようとしている」の達成状況が「C」とあるが、周尾状況により自分の考えを言いだしにくい、人前(大勢の前)で話したくない等もあるのだろうか。少人数で意見を出しやすい場の設定などを増やしていくのがよい。</p>			

自己評価			学校関係者評価	
評価項目と改善の方策			達成状況	自己評価の適切さ
子どもの姿を通して	意味理解を伴った知識	(11) 新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。 学ぶ力 主体的な学び	B	A
		(12) 意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。 学ぶ力 主体的な学び	B	A
		(13) 意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように話の内容や順序を考えている。 学ぶ力 主体的・対話的な学び	B	A
		(14) 人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。 学ぶ力 主体的・対話的な学び	A	A
	自分の伸びた目標を実感し新たな	(15) 振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることもある。 学ぶ力 振り返り (リフレクション)	B	A
		(16) 振り返ったことを、次に生かそうとしている。 学ぶ力 振り返り (リフレクション) 見通し (イントロダクション)	B	A
<自己評価と改善策> 子どもたちが学んだことを実際に活用するなど、自分の成長を実感し次の目標を立てられるようにするためには、考えたことを書き表す力を伸ばすことが重要である。これは発信力にもつながる。今後は、リフレクションのあり方を見直し、「何ができたか」「どのように工夫したか」「次にどう生かすか」といった視点で振り返りの質を高めていきたい。また、学びを言語化し共有する場の在り方も工夫し、子ども自身が成長を実感しやすい環境づくりを進めていく。			改善策の適切さ	
			A	
<御意見> ・「学んだことが生かされる場面を子どもたちが自ら気づき、自己の成長を感じられると学びの意欲になるのでは」と日頃から考えているが、「自ら気付く」が難しいと痛感している。				

自己評価			学校関係者評価		
評価項目と改善の方策			達成状況	自己評価の適切さ	
子どもの姿を通して	生活を自らコントロール	(17) 自分の目標をもって生活している。 主体性 本物の経験	A	B	
		(18) 1日の時間の使い方を自分で考えて生活している。 主体性	B	B	
		(19) 自分で計画を立てて勉強している。 主体性	B	B	
	難しいことにも挑戦する意欲	(20) 疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。 主体性 個別最適な学び	B	B	
		(21) 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている。 粘り強さ	B	B	
		(22) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。 自己決定 自己責任	A	A	
		(23) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。 チャレンジ精神	B	A	
	<自己評価と改善策> 子どもたちが生活を自ら整え、難しいことにも挑戦する力を育てるためには、学校と家庭が同じ方向を向いて支えることが重要である。生活リズムや学習の計画を自分で立てることの意味や必要性を、家庭と共有しながら丁寧に伝えていきたい。また、挑戦の過程では間違いや失敗が生じることを前向きに捉えられるよう、結果だけでなく努力や工夫の過程に目を向けて励ます関わりを大切にしたい。家庭と学校が連携して子どもを支えることで、自分の力で生活をコントロールし、困難にも臆せず挑戦しようとする姿をさらに伸ばしていく。			改善策の適切さ	A
	<御意見> ・家庭との共有、本当に大切なことだと思う。保護者は直接やり取りができる場がもう少しあるとよいのだろうか。どのように共有していくことができるのか、大きな課題と感じた。 ・家庭で親と子がもてる時間が、時代と共に短くなっていると思われるが、その分質の高い会話をするなど家庭内でできることがまだまだあると改めて考えさせられる。 ・「生活を自らコントロール」の項目に関して、アンケート結果と実際の子どもの様子はどうなのだろうかと疑問である。				

自己評価		学校関係者評価	
評価項目と改善の方策		達成状況	自己評価の適切さ
教育委員会項目	(25) 先生方は、自分が安心して学習に取り組むことができるよう、支援してくれる。 子ども一人一人を大切に	A	A
	(29) 自分の学ぶ場所は、ケガをしたり事故が起きたりしないよう、安全が守られている。 子ども一人一人を大切に	A	A
本校重点	(35) 先生方は、子どもの声を聴いてくれている。 子ども一人一人を大切に	A	A
	(36) 「あれ？」と「たい！」1日10個大作戦を大切に生活している。 課題探究的な学習 主体性	B	B
<自己評価と改善策> 本校では、「子ども一人一人を大切にすること」を大切に、教師が子どもに寄り添った関わりを行っている点が高く評価された。子どもが安心して自分を表現できる心理的安全性に加え、環境面での安全性も十分に担保されている。また、『「あれ？」』と『「たい！」1日10個大作戦』の取組が定着し、学習面だけでなく、さまざまな活動に前向きに取り組もうとする意欲の高まりにつながっている。			改善策の適切さ A
<御意見> ・「(35)先生方は子どもの声を聞いてくれる」が95.8%と非常に高く、たいへんよいことだと思う。「あれ？」と「たい！」1日10個大作戦も自己評価にある通り、学習面だけではなく様々な活動意欲につながっていて、たいへんすばらしい取組だと思う。 ・自分が大切にされていると感じられる学校はとてもすてきだ。 ・新琴似南小学校は、温かさをいつも感じる。(雰囲気、子どもたちの見方、先生同士)ここに通うことができる子どもたちは幸せだと思う。 ・子どもたちが「大切にされている」と感じて学校生活を送れることは、とてもすばらしく、理想の姿と考える。「あれ？」と「たい！」分かりやすいワードで取り組める。1日10個という数も少し多く思われるかもしれないが、この10個が自ら探しに行こうとしないと見つけられないちょうどよい数だと感じている。			

自己評価		学校関係者評価	
評価項目と改善の方策		達成状況	自己評価の適切さ
学校運営面	(1) 学校は、様々な情報を、内容・時期・方法の点において、適切で分かりやすく伝えている。	A	A
	(2) 学校は、子ども一人一人の思いや個性を大切にしながら、適切な支援を行っている。	A	A
	(3) 学校は子どもが安心して学校生活を送れるよういじめ防止、対応等の取組を適切に行っている。	A	A
	(4) 学校は、子どもや保護者から相談や声に丁寧に耳を傾け、適切に対応している。	A	A
	<p><自己評価と改善策> 校運営に関する各項目について、保護者アンケートではいずれも肯定的な回答が90%を超えており、本校の取組は概ね高く評価されている。学校の教育活動や子どもたちの様子が適切に伝わる情報発信や、安心して学校生活を送ることができる環境づくりが、保護者の信頼につながっていると考えられる。一方で、さらなる質の向上を目指し、発信内容の工夫や意見収集の方法を改善するとともに、子どもや保護者の声をより一層学校運営に生かしていく必要がある。</p>		
<p><御意見> ・2月4日の委員会でも報告があったが、保護者アンケートの回答率が20%アップしたことは大きな成果と感じた。学校任せではなく、学校と家庭が「一体」となり子どもの成長を考えていくうえで大事な取組だと思う。さらなる回答率アップに期待している。 ・保護者からの信頼は、子どもたちの成長にさらにフィードバックされると思う。このいい状態をゆっくりと向きに継続されることを期待している。 ・学校の教育活動、先生方の努力が子どもたちを成長させ、学校が安心して過ごせる場になっていること、保護者が教育活動を理解し、学校を信頼して協力していること、素晴らしいと思う。 ・学校での取組がきちんと見えているので、保護者としても子どもたちを安心して送り出せることに日々感謝している。そして、体育発表会や学習発表会も週末に開催していただいているおかげで、家族みんなで見に行ける機会となり、家庭でも自然と学校での話題が増え、日々子どもの成長を保護者が実感できているからこそその肯定的な評価になっていると思う。</p>			